

# IoTサービスを利用した生産性向上のための現場改善活動を伴走支援 ものづくり企業自身でのデータ活用の推進を目指す



採択事業者名

株式会社インテック

コンソーシアム構成員

株式会社ユタカ | 株式会社愛媛CATV | 公益財団法人えひめ東予産業創造センター

## 勉強会の実施概要

コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	11	実施回数の累計	5
参加人数のユニーク累計	46	参加人数のユニーク累計	61

## 代表的な実施事例

狙いとゴール	①愛媛県内の他の中小ものづくり企業の生産性向上やデジタル人材育成を推進するため ②愛媛県内の学生に地元のものづくり企業の魅力を伝えるため
実施の成果	①他の製造業へデータ活用におけるメリットや課題を共有することが出来た ②県内の大学生の地元製造業へのアピールが出来た ③外部勉強会を通じて、IoT導入に関する提案の機会を得た
実施アジェンダ 協議内容	①ユタカ社の課題と現場改善活動の実施報告 ②実装したIoTの機能や環境を説明 ③モノづくり企業の活性化を目指す、データ活用コンソーシアム立ち上げについて
参加者の一例	製造業7社 愛媛大学 社会共創学部(教授、学生) 愛媛県産業技術研究所、公益財団法人えひめ産業振興財団、愛媛県中小企業団体中央会
次年度以降の 想定アクション	①データ活用コンソーシアムの立ち上げ ②IoT導入の提案と実装

編集データの抜粋やビジュアルなどを適宜挿入

## データ活用・協議の具体例

重要指標例

リピータ品の加工は、同じ製品を繰り返し作るため、材料の取付と加工を繰り返す  
→生産性の効率を上げるためには、設備の待機状態(シグナルタワーの黄点灯)に着目する必要がある  
=加工開始以降の長時間の待機時間発生(シグナルタワーの黄色30分以上点灯)の短縮

	実装前	実装後
データ取得	・設備の稼働状態の確認は目視で実施	・カメラを使い、設備の稼働、非稼働の状態を取得
データ活用	・設備毎の稼働率を月次で集計	・設備毎の日別の稼働、非稼働の状態をグラフ化 ・長時間の待機時間の発生設備と回数、タイミングを自動集計
実行	・月次の部門会議で設備毎の稼働状況を確認	・日別の長時間の待機時間の発生が発生した設備とタイミング、回数がピンポイントで確認できる環境を構築
業務反映	・1ヶ月前の事象は人の記憶に残っていない為非稼働時間の短縮の検討材料にすることは難しい	・前日に発生した長時間の待機時間の原因を翌日の朝礼でヒアリングし、原因を分析する活動を継続して実施

## 代表的な実施事例

長時間の待機時間の確認を翌日に行う、原因を確認することで、発生頻度が削減できた  
確認すべき点がピンポイントで把握できるため、確認作業は非常に短時間で可能

項目	これまで	データ活用・協議を踏まえて
待機時間の削減	前月の稼働状況をもとに検討する	前日の結果をもとに毎日確認する